

「地方が主役の国づくり」に向けて

間違いをしても
やり直す機会は
かならずあります

なぜなら
わたしたちが
「失敗」と呼ぶものは

転んだことではなく
転んだまま
起き上がらないことなのですから

メアリ・ピックフォード

1. 危機としての歴史の「峠」

- (1) 「ケインズの福祉国家 (Keynesian Welfare State)」の行き詰まり
 - ・大量生産・大量消費の重化学工業を支えるインフラとセーフティー・ネット
 - ・全国的に整備されたインフラと違い政府による所得再分配
 - ・男性中心の労働市場と女性が無償労働を担う家族像の終わり
- (2) 歴史の「峠」で舵を切り間違える
 - ・「大きな共同体」を前提にした「小さな政府」
 - ・ハンドルを放してアクセルを吹かせる
 - ・「格差社会」と「不安社会」

2. 地方政府による「参加保障」

- (1) 「知識社会 (knowledge society)」への「参加保障」
 - ・「量」を「質」に置き換えた多品種少量生産の「知識社会 (knowledge society)」へ
 - ・対社会サービスによるインフラとセーフティー・ネットによる参加保障
- (2) 「ラーゴム (lagom)」と「オムソーリ (omsorg)」
 - ・地方政府による福祉・教育・医療という現物 (サービス) 給付
 - ・家族機能やコミュニティ機能に代替し、労働市場や「新しい公共」への参加保障
 - ・現金給付と現物給付とセットで国民生活を保障

(3)「再分配のパラドックス」

- ・垂直的再分配から水平的再分配へ
- ・選別主義から普遍主義へ

3. 自治体改革のシナリオ

(1)ニューパブリック・マネジメントの二つのタイプ

- ・地方自治体は企業か家計か政府か
- ・ノン・パブリック・マネジメントとニュー・パブリック・マネジメント
- ・使命と結びつけない限り、活用なきバランスシート

(2)地方税財政改革のシナリオ

- ・地方消費税という地域福祉税で「悲しみと優しさを分かち合う」社会を
- ・平成の両税移譲と事業税の外形標準化
- ・交付税充当税源の入れ換え

4. 予言の自己成就

わたしは日が照っていないときでも
太陽の存在を信じます
愛を感じることができなくても
愛の存在を信じます

第二次大戦で被爆されたケルンの地下室に残された言葉

以上